

# かわさき教育プランニュース

8

かわさき教育プラン策定委員会事務局(川崎市教育委員会企画課) Tel 044-200-3244

〒 210-0004 川崎市川崎区宮本町6番地 Fax 044-200-3950

Mail ; [88kikaku@city.kawasaki.jp](mailto:88kikaku@city.kawasaki.jp)

<http://www.city.kawasaki.jp/88/88kikaku/home/plan/index/index.htm>

2004/09/24

発行

## 各専門部会(第7回)が開催されました。

教育プランにおける施策を網羅し、体系化した「施策体系(文章化については作業中)」と、その中から特に重点的な6つの目的に沿って事業を抽出した「重点施策」について、協議をお願いしました。

以下の内容は協議をもとに事務局の責任で作成したものです。

## 第7回教育行政専門部会での協議のポイント

### 【「川崎版確かな学力」について】

- ・「拡大教育委員会」は教職員に教育を進める「当事者」として参加してもらい、教職員のやる気が出る、ボトムアップ型の教育改革をしてはどうか、という発想だ。
- ・「拡大教育委員会」の構成メンバーとしては、教職員の他に保護者などが考えられる。場合によっては「教育委員」も輪に入っても良いかも知れない。そろそろネーミングについては考えていきたい。「川崎市教育協議会」のようなネーミングのほうがりっくりくるかも知れない。
- ・学力は読み書き計算などの基礎基本だけではなく、人権尊重・多文化共生など川崎が大切にしてきたものを重視していきたい。
- ・重点施策に入っていないが、コミュニケーション力も重要だと思う。
- ・川崎の子どもたちの学力が特に弱いということはないと思う。(各種の調査から)
- ・保護者としては、自分の子どもの学力について、もっと具体的な説明を望んでいるのではないか。
- ・川崎市教育委員会として学習状況を把握して、目指す(目指した)ところと、実際にどのくらい達成されたか、を説明する責任がある。
- ・学習状況の把握(学力テスト)が競争につながると、マイナス面が出てくるのではないか。
- ・川崎市では「競争には使わない」ということをプランに明記するという手もある。
- ・「学習状況を把握する」ということを、危険性があるからやらない、とするのか、保護者のニーズに応じて、危険性はあるが前向きに取り組んでみるか、決断するのが今だということだ。
- ・「学力」が何かというような議論については、学校教育専門部会にお任せするとして、以上のような議論については、学校教育専門部会に投げかけをしたい。

### 【「個性が輝く学校」について】

- ・この重点施策は学校教育専門部会よりも教育行政専門部会が担当すべきでは今後調整させていただきます。
- ・学校の裁量権を拡大すれば、校長の力量の差ははっきりしてくる。
- ・人事権の拡大の具体策として、F A制や公募制(ある学校に赴任したい人を募る)をすでに導入している自治体も出てきている。
- ・結果的には、よりよい学校づくりに向けて校長が知恵比べをするようになる。
- ・公平な人事評価とセットで進めないといけない。
- ・予算面の裁量権拡大はいいが、人事面はいかなものか。人材の奪い合いで解決できるのか。
- ・例えば、ある部活の顧問がいないときに、公募するなど、運用法はいろいろと考えられるのではないか。

### 【「教職員の力」について】

- ・学ぶ側の教職員にどういうニーズがあるか知りたい。  
次回までに資料を用意します。
- ・「個性が輝く学校」を実現するための研修という観点が必要なのではないか。
- ・研修の時間を確保するのも、現場では苦勞している。
- ・総合教育センターを夜間や土日に開けるだけでも、違うのではないか。  
夜間は今年の9月から開放しています。

### 【「学校を地域拠点化する」について】

- ・一度侵入されると対処が困難なので、安全対策面からは警備員の配置が望ましい。
- ・ハードの問題は、結局財政問題に行き着く。知恵を出していくしかない。
- ・複合化施設(わくわくプラザなど)とのネットワーク化(相互連絡体制など)を進める必要がある。

## 第7回学校教育専門部会での協議のポイント

### 【施策体系について】

- ・どういう体系を組んで事業を実行させていったら機能的に効果をあげられるのかを学校からの視点で考えなおす必要がある。

### 【「個性が輝く学校」について】

#### 《地域運営学校》

- ・地域が受け皿になれるかどうかには地域差がある。行政が押し付けるのではなく、受け皿がきちんとしているかを見極めなくてはいいけない。また、指定するための仕組みづくりが大事。
- ・「学校が駄目だから外から干渉する必要がある」「地域も保護者も一体になって学校をつくっていく」という2つの流れがある。後者の目的をもって、共に支えあうシステムをつくっていききたい。

- ・学校運営協議会、権限拡大、情報公開、学校評価は全てセットで考えないと、学校の管理の拡大になるだけだ。
- ・地域からの改革の動きがこうした形で行えるのは、学校にとってもよい刺激になるし、よい制度だと思う。
- ・突然、地域運営学校というのは難しいのでは？まずは学校評議員を充実させる、という手順を踏んだほうがいい。
- ・学校評議員は必ずしも地域の意見を反映したものではない。川崎市が行っている様々な施策を考えると、学校運営協議会は一つの選択肢として考えるのは当然。

#### 《その他》

- ・学校裁量権の拡大と教職員評価は別の項目の中に入っているがセットだと思う。
- ・行政区における支援体制は、施策の中への位置づけ方が大事。不登校や障害児等、学校の中で居場所を持ちにくい子どもに対して生涯学習の中で対応していく事が必要。
- ・このままでは学校がやる事業が増えていくばかりなので、受け皿となる職員組織の充実が必要だ。
- ・スケジュールは時間軸が荒い。すでに動き出しているものと、これから検討していくものが混在している。短期計画と中長期計画をもう少し整理してほしい。
- ・「個性が輝く学校をつくる」は、タイトルとしてあっていないのでは。「地域に根ざした特色ある学校をつくる」のほうがよいと思う。
- ・地域に根ざすかどうか重要だ。外部評価は数値化されたものか、地域で作り上げられたものかではまったく違うものになる。トップダウンではいけない。
- ・背景・目的に書かれていることが非常に大切だ。
- ・地域に根ざした学校づくりを進めると、こうした可能性が出てきます、ということをもっと出していないと、改革プランとして分かりづらい。
- ・学校の裁量権拡大に関して、予算などは、学校ごとに差がつくのか、一律の予算配当の中で使い道が自由になるのか、どちらが想定されるのか。一律配当ではなく、学校と調整の中でメリハリをつける部分を多くしていく。

#### 【「川崎版確かな学力をつける」について】

##### 《川崎版確かな学力》

- ・「生きる力」には体力や人権尊重をという意味も入っていたが、確かな学力だとそれらが抜けてしまう感じがする。
- ・どんな子どもを育てたいといった目標、子ども観があれば川崎版というのが出てくる。子ども像がはっきりしないで学力を論じるのは難しい。
- ・川崎ではどんな人間を育てたいのか、そのメッセージを大きく出す必要があり、「川崎版」という言葉を出すと、そうしたメッセージになる。
- ・「川崎版」という言葉がもつ意味は非常に大きい。それが目標や川崎の子ども像などの中でどう効果をあげていくのか、位置づけを明確にしてほしい。事務局で整理してほしい。